平成29年度秋季
第100回企画展

高くなる川底、激しくなる洪水…

天井川と洪水

大和川のつけかえ工事

9.12/火 → 12.10/日

JR大和路線 高井田駅 から
徒歩 5 分

近鉄大阪線 河内国分駅 から
徒歩約 15 分

9:30 ～ 16:30
月曜休館 / 入館無料
（祝日は開館）

柏原市立歴史資料館
柏原市高井田 1598-1　電話：072-976-3430

館長と学ぶ
大和川講座

講師：安村俊史
（柏原市立歴史資料館館長）
13:30 ～ / 当館 3 階研修室
定員 70 名
参加費無料・申込不要
当日 13 時より受付

9.23/ 土
『和気清麻呂の付け替え工事』

10.28/ 土
『天井川となる大和川』

11.25/ 土
『大和川付け替え運動のはじまり』

12.23/ 土
『大和川付け替え運動の展開』

史跡
高井田横穴特別公開

10.21/ 土
10:00 ～ 15:00
参加費無料・申込不要
職員によるツアーガイド
10 時・11 時・13 時・14 時

今から300年ほど前まで、大和川はなんども洪水をおこしていました。そのため、宝永元年（1704）に柏原から西へとつけかえられることになりました。これで、それまでの大和川周辺では洪水がなくなりましたが、こんどは新しい大和川の近くで洪水がおこるようになりました。今回は、つけかえまで天井川だった大和川と、その洪水を中心に考えてみたいと思います。

大和川のつけかえ運動

つけかえ前の大和川は、久宝寺川（長瀬川）、玉櫛川（玉串川）、平野川などに分かれて流れ、大阪城の北でもとの淀川（大川）に流れこんでいました。そして、大和川の洪水に苦しむ人たちが、大和川をつけかえてほしいという運動をはじめました。幕府（国）はつけかえが必要かどうか、なんども考えましたが、いつもつけかえは必要ないということになりました。つけかえに反対する人たちがたくさんいたことも理由のひとつでした。新しい川ができるとこまる人たちが、つけかえに反対したのです。そのため、つけかえが行われることはありませんでした。

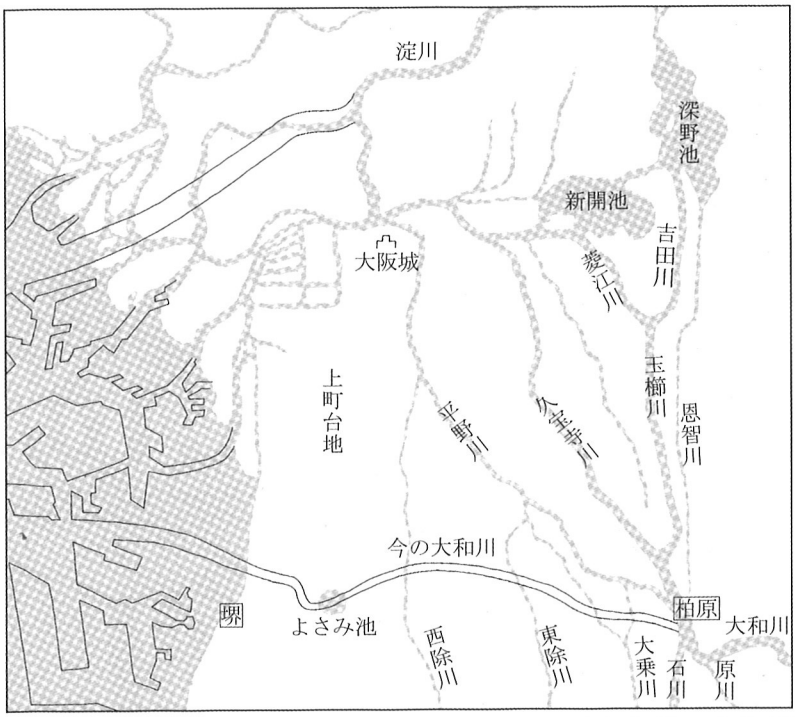
貞享4年（1687）にも、つけかえをお願いする文章が幕府に出されましたが、つけかえはできないという答えが幕府からかえってきたようです。それから、つけかえを願う文章が出されることはなくなり、大和川の流れが少しでもよくなるような工事をしてほしいというお願いに変わります。そして、そのお願いに参加する人たちもどんどん少なくなっていきました。

そのあと、幕府は急につけかえることに決めました。つけかえると洪水がなくなるだけでなく、幕府にたくさんお金が入ってくると考えたからです。つけかえ工事で幕府が使ったお金は、もとの川に田畑（新田）をつくるためにはらわれたお金で、ほとんどもどってきたのです。そのうえ新しくできた田畑からは、年貢（税金）が入ってくるようになるのです。

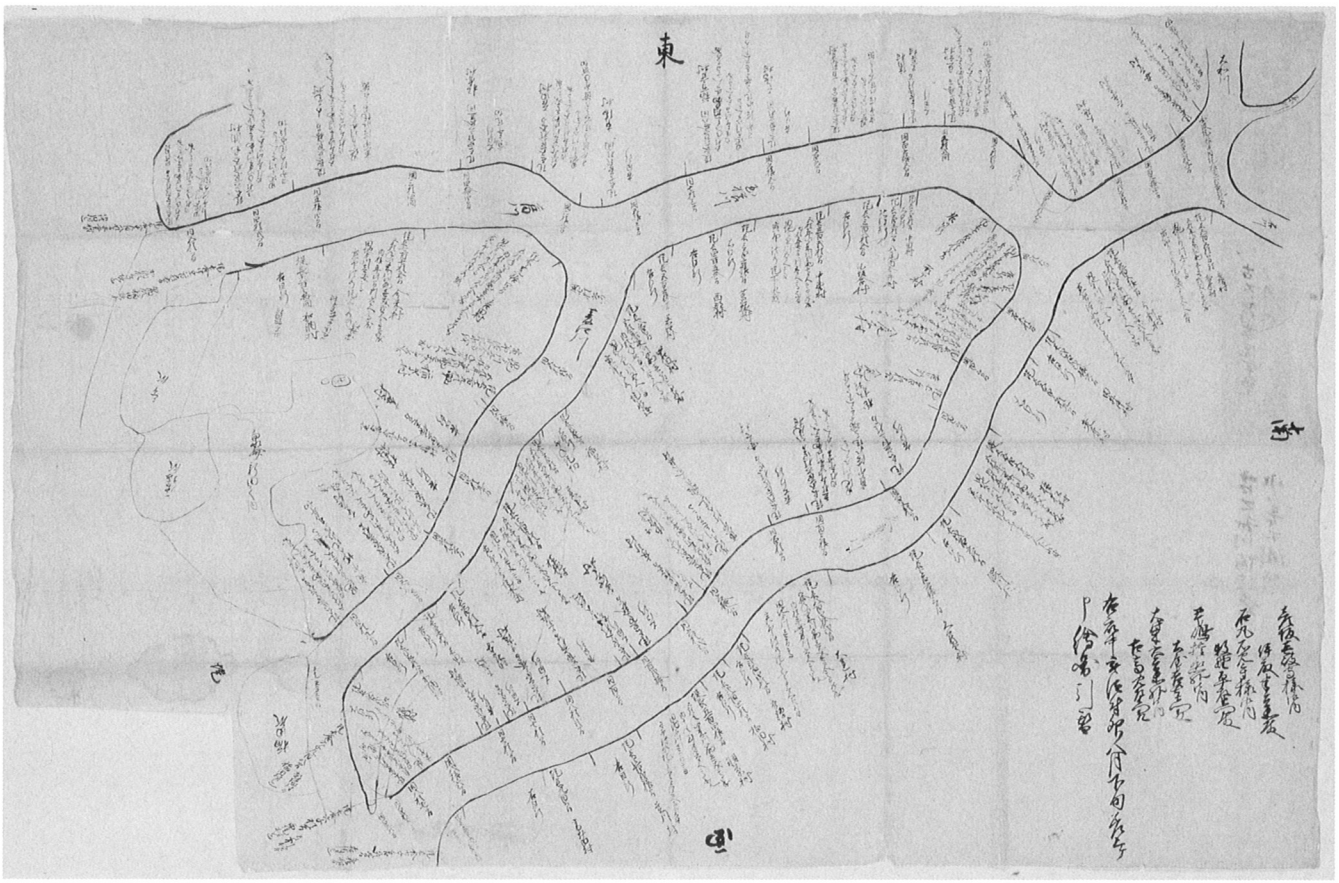
大和川のつけかえ工事

工事は宝永元年（1704）の2月にはじまり、10月に新しい大和川が完成しました。たった8か月で大工事が終わったのです。新しい大和川は、川を掘らずに両側に堤防をつくるだけでできています。それで、工事を早く終わらせることができたのです。

つけかえのあと、もとの川には新田がつくられました。新田では、綿がつくられ、綿からつくられたじょうぶな河内木綿は、高級品として売れました。もとの川の近くでは、洪水の心配もなくなりました。



つけかえ前の大和川

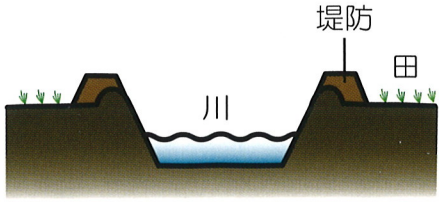


延宝３年（1675）「古大和川附換前水害下調図（堤防比較調査図）」中家文書

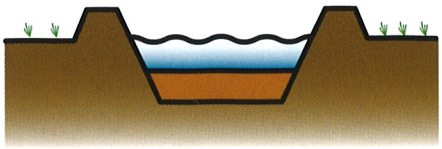
つけかえ前の大和川は天井川だった

上の図には、つけかえ前の大和川の川幅や川底の高さなどが、村ごとに書きこまれています。たとえば、舟橋村・柏原村のところでは、川幅が169間（307m）、194間（353m）、210間（382m）だったことがわかります。そして、50年前よりも川底が１丈２尺（3.6m）高くなり、まわりの田よりも９尺（2.7m）高かったということです。つけかえ前の大和川の川底は、まわりの田より0.9～3.3m高かったようです。このように、まわりの土地よりも川底のほうが高い川を天井川といいます。もちろん、川の両側には堤防があるので、水があふれてくることはありません。でも、もし堤防がつぶれたら、水がいっきょに流れ出して大洪水になってしまいます。

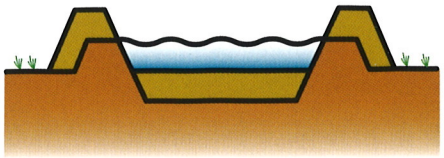
では、どうしてもとの大和川は天井川になってしまったのでしょう。川は、自然のままではどんどん流れを変えて流れていきます。これでは、田をつくってもすぐに流されてしまいます。そこで、今から800年ほど前（鎌倉時代）に、もとの大和川の両側に堤防をつくって、川がいつも同じところを流れるようにしました。これで川の近くまで田をつくることができるようになりました。ところが、上流から流れてくる土や砂が川底にたまっていきます。そうすると、洪水にならないように堤防をもっと高くします。これをくりかえしているあいだに、川底がまわりの土地よりも高い天井川になってしまったのです。



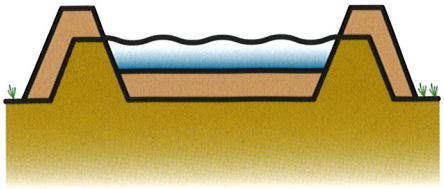
1 川がいつも同じところを流れるように堤防をつくる。



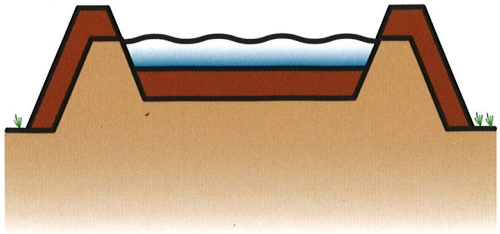
2 土砂がたまって川底が高くなる。



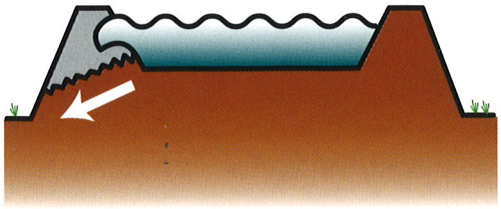
3 川底が高くなるため堤防を高くする。



4 さらに川底が高くなり、堤防をもっと高くする。



5 これをくり返していると まわりの土地より高くなり、天井川となる。



6 天井川になると、洪水がおこったときの被害が大きくなる。

どうして天井川（てんじょうがわ）になるのか？

どうして土や砂がたまっていくのか

山に木や草がはえていると、雨が降っても木や土にたくわえられ、少しずつ川に流れていきます。ところが、木や草がなかったら、雨はそのまま土といっしょに川に流れ出してしまいます。今から400年くらい前（江戸時代（えどじだい））になると、山が荒（あ）れて山の土や砂（すな）がたくさん川に流れ出すようになりました。人々は、たきぎとして木を切るだけでなく、松の根っこまで掘り出すようになったようです。松の根に火をつけて、夜の明かりとして使うようになったのです。

幕府（ばくふ）（国）も、なんども山の木を切るな、山に木を植えろと命令（めいれい）しましたが、うまくいかなかったようです。山から流れ出した土や砂によって、大和川はどんどん天井川（てんじょうがわ）になっていき、洪水（こうずい）もだんだん激（はげ）しくなっていったようです。